

第1学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

1 題材 「自分らしく着よう」

2 指導観

○ 現代の衣生活を振り返ると、色やデザイン、サイズも豊富となり、さまざまな衣服を安価に入手することができるようになった。また、私たちは、衣服を購入する際に、自分の個性を自覚せず、勧められるままに、あるいは衝動的に購入することもある。そのため一度も着用しない衣服が、タンスの中に存在することがある。このことから私たちは、多くのものや人・情報に振り回され受け身の姿勢で衣服を選ぶのではなく、自分に必要な情報を選びとるための、知識を身に付けることが必要であるといえる。そしてその知識を生かして、自分の衣生活をよりよくするための力を付けていくことは、これからの自分の衣生活を、自分で考え、決定し、すすめていく上で価値がある。また T.P.O. に応じた衣服の着方を考えることは、衣服のはたらきを理解し、これからの自分の衣生活を無駄なく、また社会人として、より豊かな人間関係をつくって過ごしていくことにつながり大切なことである。本題材では、衣服を選ぶ時に、どのようなことに気がついたらいいかを、色を切り口に学習し、自分の個性を生かして、目的に応じた衣服の着用ができるようになることをねらいとしている。学習内容としては、衣服のはたらき、衣服と色の関係、自分らしい着方、目的に応じた着用などがある。

○ 本学級の生徒たちは、事前アンケートから、衣生活についての小学校での既習事項としては、5・6年生を通して雑巾やエプロンやナップサック作り、アイロンや洗濯の仕方など、生活に結びつく体験的な学習を経験してきている。衣服の着方については、季節にあった衣服の着方を学習してきているはずだが、その記述はあまり見られなかった。

さらにアンケートから、日常生活の中で衣服を購入するとき、自分で意思決定して選ぶ生徒は全体の 75%であった。雑誌やテレビなどの衣服の情報も多いため、流行に敏感になっており、色、柄、デザインを中心に選ぶことが多い。けれども自分のファッションセンスには 80%の生徒が、自信をもっていないと答えている。また衣服を購入した際に失敗した経験のある生徒は 40%であった。そのうち、サイズが合わなくて着られなかったと解答した生徒 50%、似合わなかったと解答した生徒が 20%と、衝動買いによる失敗を経験している。自分に似合う色については知らない、わからないと答えた生徒は、全体の 60%であった。以上のことから、中学生になり衣服を自分で選ぶようになる傾向は非常に高いが、自分に似合う衣服を選ぶための手だてがわからないため、既製服を購入する際に失敗したり、手持ちの衣服をうまく活用できなかつたりする傾向にある。

また生徒達は、1学期に、美術の時間に色彩の基礎学習を通して、色の成り立ちについて学習している。主な内容は、色相・彩度・明度などについて学習し、それをもとに、季節感を取り入れた衣服の着色を行っている。

○ 指導にあたっては、できるだけ学習を身近に感じ、実生活に応用できるようにするために、実際の場面を想定したシミュレーション活動を取り入れながら、題材を構成した。特に色については、美術の時間で学習したことを関連させながら、色彩の基礎的学習を生かすようにした。

はじめにダイヤモンドランキングを用いて、自分が衣服を選ぶときに、何を基準に服を選んでいくか、自分の考えを振りかえらせる。そして他の人の意見を聞くことにより、衣服を適切に選ぶためには、検討すべきポイントがたくさんあることに気づかせる。

次に衣服のはたらきについて学習させる。ここでは、小学校での学習を振り返りながら、保健衛生上のはたらきに加え、さまざまな衣服の例を見せながら「なぜこの衣服を着るのか」と発問し、意見のやりとりを通して、社会生活上のはたらきがあることに気づかせる。その際、後に学習する衣服の着方に関連があることを知らせる。

さらに、美術科の学習における色彩に関する既習事項を生かして、色に着目して学習をすすめる。ここでは、まず色のもつ印象を実感させるために、異なる色の衣服の模型を提示し、色から受ける印象を発表させる場を与える。次に、似合う色を選ぶときには、その人がもつイメージや皮膚や髪の毛の色などが影響を与えていることをわからせたために、美術科の時間に着色した衣服の模型を活用して、モデルに似合う衣服の色の組み合わせを考える活動を仕組む。そして、自分らしい衣服を選ぶためのポイントを理解させる。

最後に、さまざまな縞模様を用いて、模様のもつ効果について学習する。さらに色や柄には自分の気持ちを表す側面があることや、社会生活上のきまりがあることを気づかせるために、既習事項である衣服のはたらきで学習した内容を想起させるとともに、学習プリントを使って、さまざまな場面設定での衣服の色や柄を考えさせる活動を仕組む。そして、学習したことをこれからの自分の家庭生活に生かせるように、「My コーディネイト」を課題に出すことで、自分らしい着方について考える場をつくる。

3 目標

- 衣服の選択や着用に関心をもち、よりよい衣生活を目指した実践的な態度を身に付けようとしている。
- T.P.O. に応じた衣服の組み合わせを考え、個性を生かした着方を工夫する。
- よりよい衣生活を送るために、衣服の選択・購入や着用をすることができる。
- 衣服のはたらきを理解し、自分の個性を生かし、目的に応じた衣服の着用の仕方がわかる。

(1)本時の指導観

前時までには生徒は、衣服のはたらきについて学習している。また1学期の美術の時間の中で、色彩の基礎的学習について学習している。

そこで、本時では、美術の時間に着色した衣服をもとに、色には見た人に与える印象があること、そして自分らしさを考えた衣服の着方のポイントを理解することを目標にしている。

まず本時のめあてを学習プリントで確認する。次に、暖色・寒色・重い色・軽い色・強い色・弱い色の衣服の模型を提示する。そしてそれぞれの色のもつ印象を考えさせる。その上で色のはたらきについて理解を深める。次に、美術の時間にあらかじめ生徒が着色した衣服の模型を用いて、モデルの紙人形に着せて、それぞれの衣服を組み合わせ交流する場を設け、一番似合う衣服の組み合わせを選ばせる。その際、班活動により、意見交換する場を設定し、互いの意見を聞きながら、なぜそれを選んだのか理由を考えさせる。そして班で選んだ作品を発表する場を設定する。一連の活動を通して、似合う服を選ぶためには、衣服の上下の色のバランス、その人のもっている皮膚や髪の色と衣服の色のバランス、その人のもつイメージなどに影響されることに気づかせたい。

最後に、これからの自分自身の衣服の着方に生かしていくために、自分らしい衣服を着るためには、どのような工夫をしたらよいかを考える場を設定する。

(2) 主眼

- 衣服の色には、さまざまなイメージがあることに気づく。
- 自分らしさを考えた着装をするためのポイントを説明できる。

(3) 準備

- ①学習プリント ②衣服の模型 ③生徒作品 ④モデルA ⑤マグネット ⑥セロテープ ⑦はさみ ⑧モデルB

(4) 指導過程

学習活動・内容	資料	○主な支援・留意点 ◇評価規準(評価方法)	形態	配時 (分)
1 本時のめあてを確認する。 「自分らしさを考えた服を選ぼう。」	①	○前時の衣服のはたらきを確認する。	一斉	5分
2 いろいろな色の服を見て、どんな印象をもつか考え、色のもつはたらきについて考える。 ・あたたかい やさしい 冷静 ・個性 性格 雰囲気	②	○美術の時間に学習した色の印象の内容が思い出されるように暖色・寒色・重い色・軽い色・強い色・弱い色のついた模型を用意する。 ○美術の時間に学習した言葉を用いるようにする。 ○印象が広がらない生徒には、黒板に貼っている言葉を使用してよいことを示し、考えを促す。 ◇色には、さまざまなイメージがあることがわかる。 (発言チェック・プリント分析)	一斉 個人	10分
3 モデルAに一番似合う衣服を選び、選んだ理由を発表する。 ・モデルのイメージに合う。 ・衣服の色の印象から、自分の印象をカバーする。 ・上下の組み合わせのバランスがよい。 ・髪の色や皮膚の色に合っている。	①③ ④⑤ ⑥⑦	○各班に男女1体ずつモデルAを与え、それぞれ作製した衣服を着せるように指示し、その中から一番似合っている衣服を選ばせる。 ○選んだ視点を明確にするために、理由を考え、学習プリントに記入するように指示する。 ○4つの視点が不足していたら説明をして補う。	班	20分
4 自分らしい着装をするための、ポイントを考える。 ・試着の大切さ ・色のもつ印象の生かし方 ・他者からのアドバイス ・自分自身の印象の把握	① ⑧	◇自分らしい衣服を選ぶためのポイントが説明できる。 (発言チェック・プリント分析) ○意見が出てこないときは、モデルBを提示して、Aとの違いを考えさせる。	一斉	10分
5 まとめを行い、次時の予告を聞く。			一斉	5分

4 指導計画・評価計画 (4時間)

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 〈評価の方法〉	(関心・意欲・態度)	(工夫・創造, 技能, 知識・理解)	
				期待する姿	おおむね満足できる状況 【B】	十分満足できる状況 【A】
1	1 上手な既制服の選び方について考える。 ・試着のポイント ・自分に似合うか ・縫製の良否・手入れの方法 ・手持ちの衣服の組み合わせ ・価格・素材 など	・既制服を中心に取り上げるようにする。 ・衣服を選択する際に大切に する視点を思いっただけ出 させ、自分なりの価値基準 をもって、ランク付けさせ るようにする。	関：自分の衣生活への関心をもっ ている。 〈プリント分析〉	・自分の衣生活が家族任 せであることに気づき 衣生活にかかわろうと する発言や記述が見ら れる。 ・これからの衣生活を少 しでもよりよいものに しようとする記述が見 られる。	・衣服には所属や職業や 気持ちを表したりする はたらきがあることを 教科書を見てまとめて いる。	・多様な衣服を比較して 役割の違いから、それ ぞれの衣服のはたらき を説明することができる。
1	2 衣服のはたらきと着方を考える。 ・衣服の保健衛生上の機能 ・衣服の社会生活上の機能	・社会生活上のはたらきに、 気づけるような衣服の例を 提示する。	知：衣服を保健衛生上のはたらき と衣服の社会生活上のはたらき がわかる。 〈プリント分析・評価テスト〉			
2 (1) 本時 3 / 4	3 衣服と社会とのかかわりを考 え、着方を工夫する。 (1)自分らしい着方を考える。 ・色や柄の調和を考えた着方	・美術の時間に着色した衣服 の模型を活用する。 ・美術の時間に学習した言葉 を用いるようにする。	知：衣服の色には、さまざまなイ メージがあることに気づく。 ☆〈プリント分析〉 知：自分らしい衣服を選ぶための ポイントを説明できる。 〈発言チェック・プリント分析〉		・色には、さまざまなイ メージがあることに気 づいている。 ☆：Cの生徒への手だて 説明の際に使用した印象を示す言葉を提示してお き、机間指導をして、印象が広がらない生徒には、 その言葉を使用してもよいことを知らせる。 ・自分らしい衣服を選 ぶための、具体的な手だ てを1つあげている。	・色には、人に印象を与 えることがあることに 気づく。 ・自分らしい衣服を選 ぶための具体的な手だて を複数あげている。
(1)	(2)T.P.O. に応じた衣服の着方 を考える。 ・T…TIME (時) ・P…PLACE (場所) ・O…OCCASION (目的) ・さまざまな場面での着方	・衣服のはたらきで学習した ことにつながるように、既 習の資料を活用する。	工：T.P.O. に応じた衣服の着用 や個性を表現した着方を工夫 する。 〈作品分析, 評価テスト〉 技：指定されたT.P.O. に応じて、 個性を發揮した衣服の着方を 考えることができる。 〈評価テスト〉		・T.P.O. に応じた衣服 の組み合わせを考えてい る。 ・指定されたT.P.O.に 応じた衣服の着方を考 えることができる。	・色やデザインを検討し て、T.P.O. に応じた衣 服の組み合わせができ、 さらに個性を表現した 衣服の組み合わせを考 えることができる。 ・指定されたT.P.O.に 応じた衣服の着方に個性を生かす ことや帽子や小物など細かい ところまで考え、表現で きる。
課外	Myコーディネートを実践す る。 ・実践レポート 「Myコーディネート大作戦」		関：T.P.O. に応じた衣服の着用 や自分らしい着方を工夫で きる。 ☆〈プリント分析〉	・これからの衣生活を管 む中で、T.P.O. に 応じ、なおかつ自分ら しさを取り入れ、よりよ いものにしようとする 記述や発言が見られる	・T.P.O. に応じた自分 に似合う衣服の着方を 工夫できる。 ☆：Cの生徒への手だて デザイン画を、描けそうにないときは、教科書を 参考にすることや写真や文章で補完してもよいこ とを助言する。	・T.P.O. に応じた髪型や 小物など細かいところ まで工夫することがで きる。